

システイーナ礼拝堂 500 年祭記念

ミケランジェロ展一天才の軌跡

Michelangelo

The Making of a Genius and the 500th Anniversary of the
Sistine Chapel

イタリア・ルネサンスの偉大なる巨匠ミケランジェロ・ブオナローティ（1475-1564）。
“神のごとき”と称され、画家としてだけでなく彫刻家、建築家としても、ルネサンスの頂
点を極めました。本展覧会では、ミケランジェロ作品・資料の8割を有するといわれるフィ
レンツェのカーサ・ブオナローティから、彼が15歳くらいで制作したとされる日本初公開
の彫刻《階段の聖母》を中心に、絵画、素描、書簡など60点を展示。89歳で亡くなるまで、
精力的に活動した彼の偉大なる功績を紹介いたします。



《ミケランジェロの肖像》

マルチェロ・ヴェヌスティ(帰属)、1535年以降、油彩、カンヴァス

カーサ・ブオナローティとは

カーサ・ブオナローティは、元来 1508 年ミケランジェロがフィレンツェ旧市街のギベッリーナ通りに購入し、1516 年から 25 年まで居住した邸宅でした。その後は甥レオナルドとその家族の住まいとなり、以降一時の中断はあったものの 19 世紀半ばに フィレンツェ市に譲渡されるまで、ミケランジェロの子孫ブオナローティ家の本拠でした。現在は、一家が代々受け継いできたミケランジェロの素描、彫刻、書簡をはじめとする膨大な美術・考古・歴史コレクションと、ミケランジェロの偉業を讃えるバロック壁画の施された居室群を有する美術館として、一般公開されています。とりわけミケランジェロの素描と書簡に関しては世界一の質と量を誇り、世界的なミケランジェロ研究の拠点としても、重要な役割を果たしています。



《カーサ・ブオナローティの景観》

19 世紀の画家 1830 年頃 リトグラフに着色

作品介绍

《階段の聖母》* 日本初公開

現存するものとしては、ミケランジェロの最初期の作品の一つ。15-17歳のころ完成された大理石彫刻です。浅浮雕（スティアッチャート）による聖母子像は、ルネサンス彫刻の創始者ドナテッロが得意とした技法・主題であり、キャリアのスタートに立ったミケランジェロが、偉大な先達の例に倣って鑿を手にしたことは想像に難くありません。しかし、ドナテッロのより繊細な人物描写や、空間への関心などと比べると、マリアの全身を極めて立体的に彫出し、力強い存在感を与えている点に、ミケランジェロの彫刻の特質が既に現れています。



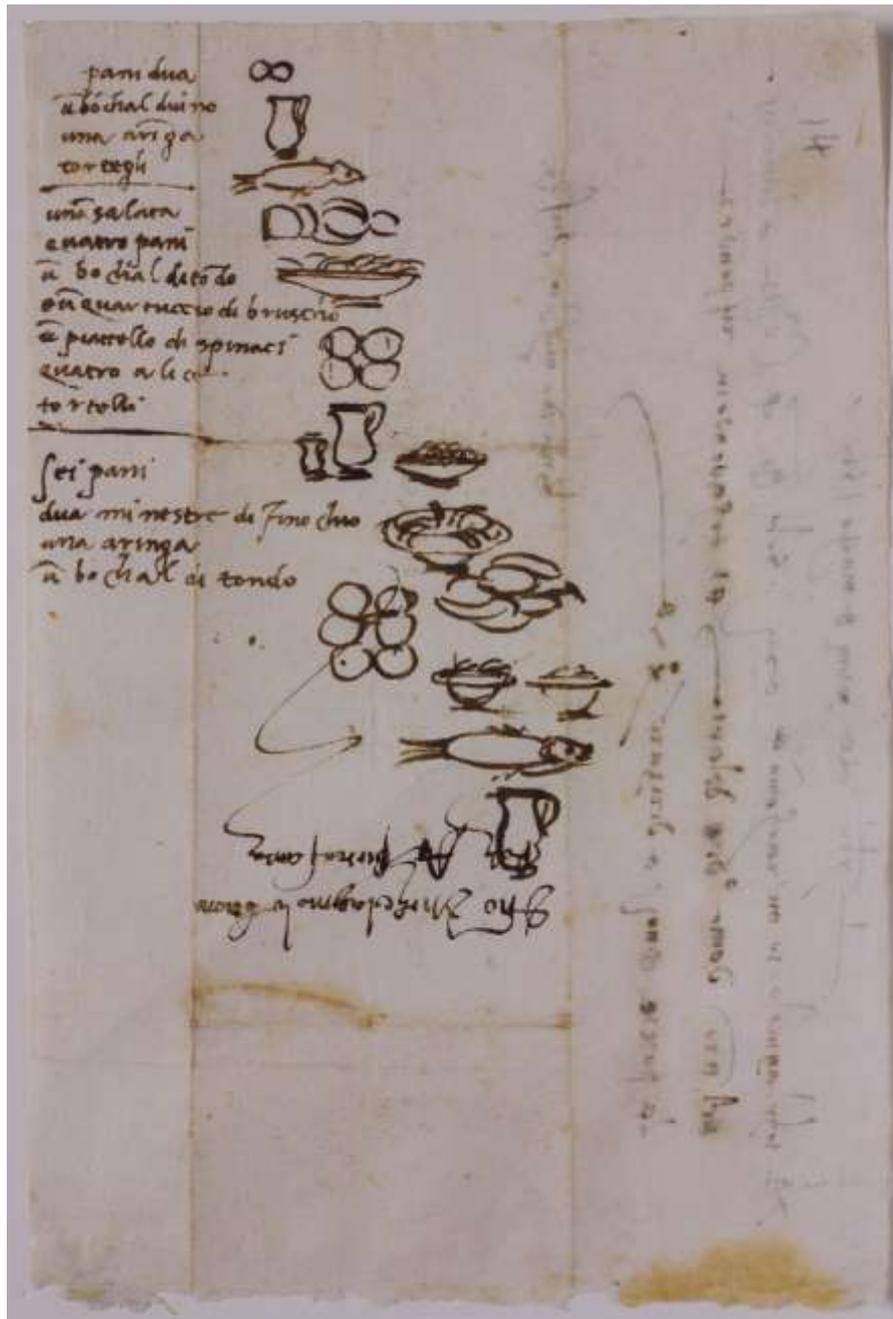
《階段の聖母》1490年頃 大理石

《レダ》*日本初公開

とある高名な美術史家をして、「イタリア素描史上最も美しい頭部の一つ」と言わしめた傑作。下を向き思いに耽った横顔が、極めて繊細な赤チョークのハッチングの濃淡でかたどられています。頬や耳などの最も細やかな部分は、ミケランジェロ本人が指で線を敢えてぼかしたとも、チョークを濡らして描いたとも考えられています。レダは、白鳥に姿を変えたゼウスに誘惑された、ギリシア神話の登場人物です。ミケランジェロは、フェラーラ公アルフォンソ・デステのために《レダと白鳥》を主題とする絵画を制作し（紛失）、本素描はそのレダの頭部習作として制作されたと考えられます。レダは女性ですが、ミケランジェロは当時の慣習に従い、男性モデルを用いてこの頭部を制作したようです。



《「レダ」の頭部習作》1530年頃 赤チョーク



《食べ物のスケッチ；ミケランジェロが記した3つのメニュー》
1518年 ペン



《キリストの磔刑》1563年頃 木



《「最後の審判」のための習作》
1533-34年? 黒チョーク、赤チョーク

作品はすべてフィレンツェ、カーサ・ブオナローティ所蔵

© Associazione Culturale Metamorfosi e Casa Buonarroti

ミケランジェロ略年表

1475年3月6日 アレッツォ近郊のカプレーゼに生まれる。

1488年 フィレンツェのギルランダイオ工房で徒弟として一年を過ごした後、ロレンツォ・イル・マニフィコの下で彫刻を学ぶ。《階段の聖母》はこの頃に作られた。

1494-95年 ヴェネツィアとボローニャに滞在。

1496-1501年 ローマにて《バックス》と《ピエタ》を相次いで制作。

1501年 フィレンツェにて《ダヴィデ》を含む複数の大理石像を制作。

1504年 レオナルドとの競作壁画《カッシナの戦い》に着手。

1505年 教皇ユリウス2世のための墓碑が委嘱され、これ以降40年間に渡って断続的に制作。

1508-12年 システィーナ礼拝堂天井画の制作に従事。

1514年 教皇レオ10世がサン・ロレンツォ聖堂（フィレンツェ）のファサードを委嘱。

1519年 新たに委嘱された同聖堂新聖具室（メディチ家礼拝堂）を15年間に渡り断続的に制作。

1534年 ローマに永住。

1533-41年 システィーナ礼拝堂壁画《最後の審判》を制作。

1544-50年 ヴァチカン宮殿内パオリーナ礼拝堂壁画を制作。1546年以降は建築主任としてサン・ピエトロ大聖堂の改築事業に携わる。

1559年 《ロンダニーニのピエタ》に着手。

1564年2月18日 ローマで歿する。